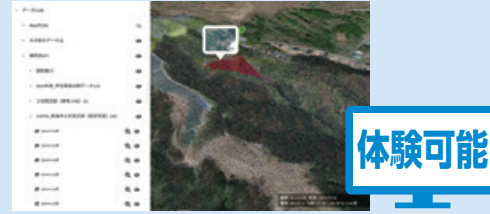


⑥ モデル空間の公開機能

構築した空間情報は閲覧可能なデジタルアーカイブとして外部に公開し、情報共有することが可能です。公開設定したプロジェクトの公開用URLを発行することで、いつでも・どこでもランドログビューア上で空間情報を閲覧できます。



⑦ 多彩なデバイスと連携

IoTデバイス(水位計や変位計などのセンサー)から取得した情報を連携させることで、インフラ構造物の変状を「見える化」します。ランドログプラットフォーム上で様々なIoTデバイスやセンサーと連携させ、ランドログビューア上に必要な情報を表示できます。



様々な拡張子に対応 ランドログビューアは数多くの拡張子に対応しており、様々な3次元データの入出力が可能です。

種別	拡張子	種別	拡張子
Filmbox	.fbx (一部)	KML	.kml/.kmz
IFC	.ifc	SHAPE	.zip (.shp/.shx/.dbfを格納したZIPファイル)
DWG	.dwg (3Dデータ)	CZML	.czml
LASer	.las/.laz/.zip (複数のlasファイルを格納したZIPファイル)	GeoJSON	.geojson/.topojson/.json
LandXML	.xml (J-LandXML含む)	3DTiles	.zip
DXF	.dxf	JPEG	.jpg/.jpeg
CityGML	.citygml/.gml/.zip	TIFF	.tiff/.tif/.zip

料金〈基本パッケージ〉 ランドログプラットフォームは1契約あたり2TBの容量になります。(税抜)

プラン名	ID数	費用	1ユーザ月額費用	10ユーザ年額費用
10ユーザ年額パッケージ	10 ID	年額 120,000円	1,000円	120,000円
5ユーザ月額パッケージ	5 ID	月額 10,000円	2,000円	240,000円

オプションプラン Smart Constructionとの連携で、BIM/CIM対応やDX化に関わる様々な活用が可能です。基本パッケージには含まれません。

点群取得 オプション	維持管理 オプション	移動体支援 オプション	土工設計支援 オプション
<p>測量・高速処理を含めた点群データの取得と閲覧用のランドログビューアがセットになったプラン</p> 	<p>点群データや現地撮影写真・衛星画像により、3次元での状況把握が可能となる、建設コンサルタント様の維持管理業務向けプラン</p> 	<p>車両に動態管理デバイスを設置することで、ランドログビューアで位置情報・移動速度まで確認可能なプラン</p> 	<p>3次元空間上で施工計画の検討やタスクの最適化、ランドログビューアの関係者への共有機能がセットになったプラン</p> 

個社向けカスタマイズ(個別相談)

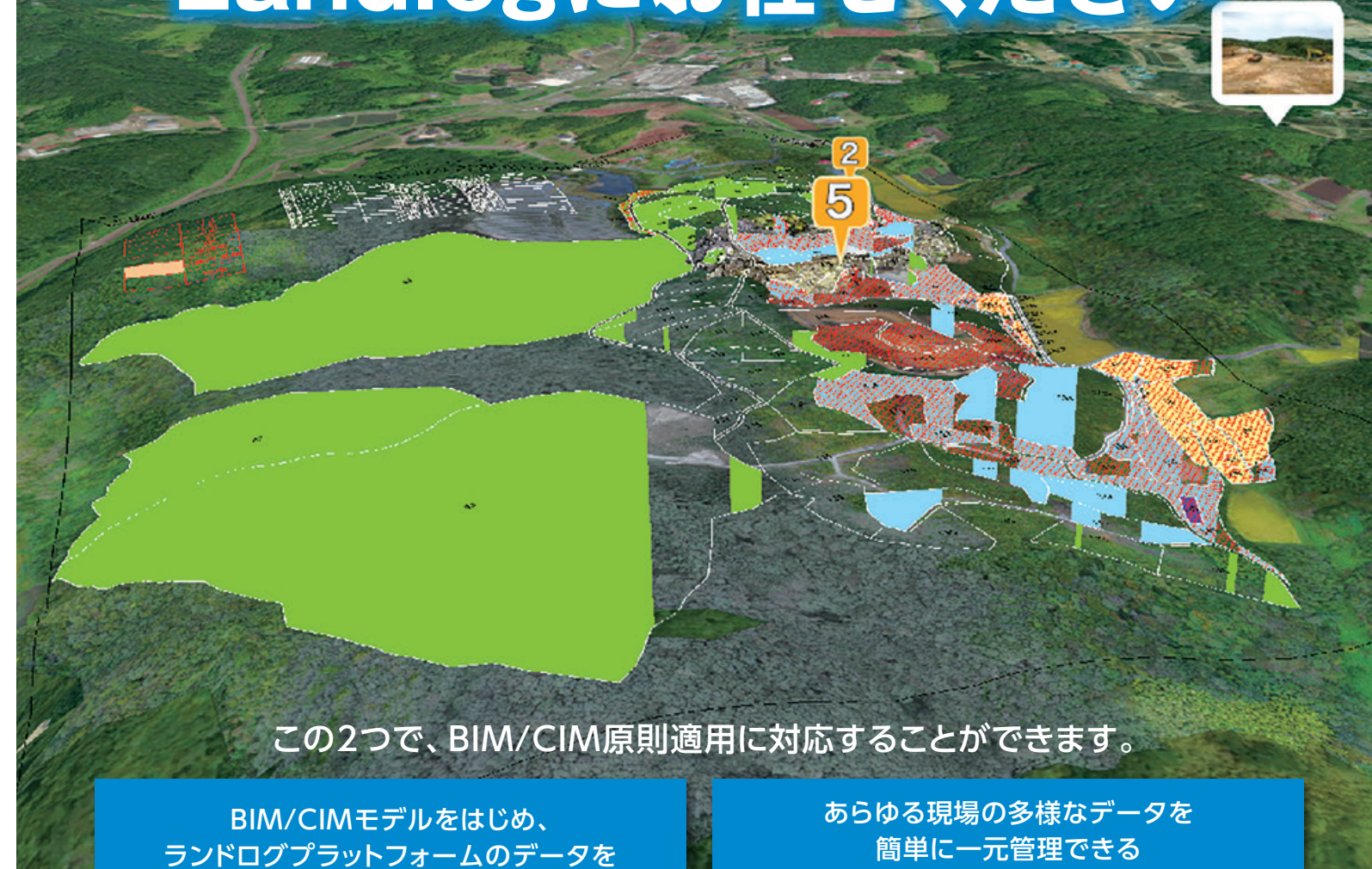
ランドログビューアの販売やデバイス連携の協業だけでなく、アプリケーションの各社様向けカスタマイズも行っております。例えば、各企業様所有のセンサーと連携し、グラフ化する・アラートを表示するなどの目的に特化したカスタム開発を行い、実行環境やアカウント(Landlog認証)を提供できます。お気軽にお問い合わせください。

製品・サービスに関するご相談や導入のご検討についてはランドログホームページのお問合せフォームより、お問い合わせください。


株式会社EARTH BRAIN
Landlog カンパニー
 〒106-6029 東京都港区六本木一丁目6番1号
 泉ガーデンタワー29階

お問い合わせ

BIM/CIM対応への準備は Landlogにお任せください



この2つで、BIM/CIM原則適用に対応することができます。

BIM/CIMモデルをはじめ、
 ランドログプラットフォームのデータを
 丸ごと見える化


Landlog Viewer

あらゆる現場の多様なデータを
 簡単に一元管理できる

ランドログプラットフォーム
NETIS

国土交通省新技術情報提供システム
 登録番号 QS-210052-A

国土交通省による 令和5年度 BIM/CIM原則適用に対応

- BIM/CIMの意義として、3Dデータの活用・共有を行うことで、受発注者の生産性向上のほか、災害対応など国や地域を守ることに繋がります。国土交通省による原則適用に向けた指針は、建設業の効率化・高度化という将来を見据えた布石となっています。
- 令和5年度から小規模を除く、国の直轄発注の詳細設計・工事すべてに適用されます。いずれは都道府県、さらには市町村工事に広がっていくことが予想されるため、受注者の積極的な対応が必要です。



まるっと解説 BIM/CIM原則適用とは

活用目的(事業上の必要性)に応じた3次元モデルの作成・活用

- 発注者の役割**
- 業務・工事ごとにBIM/CIMの活用目的を明確に。
 - 業務・工事の特性に応じて、義務項目、推奨項目から活用目的を選択
- 受注者の役割**
- 活用目的を受けて、3次元モデルを作成・活用

視覚化による効果

省力化・省人化

情報収集等の容易化

- ポイント**
- 義務項目は、「視覚化による効果」を中心に未経験者も取組可能な内容とした活用目的となっている。
 - ▶原則すべての詳細設計・工事で、発注者が明確にした活用目的に対して、受注者が3次元モデルを作成・活用することになる。
 - 推奨項目は、「視覚化による効果」の他「3次元モデルによる解析」など高度な内容を含む活用目的となっている。
 - ▶一定規模・難易度の事業で、発注者が明確にした活用目的に対して、受注者が1個以上の項目に取り組むことを目指している。
 - ▶BIM/CIM原則適用では、該当しない業務・工事であっても積極的な活用を推奨している。

要約すると、下の2つの活用項目の実施が求められています。^{*1}

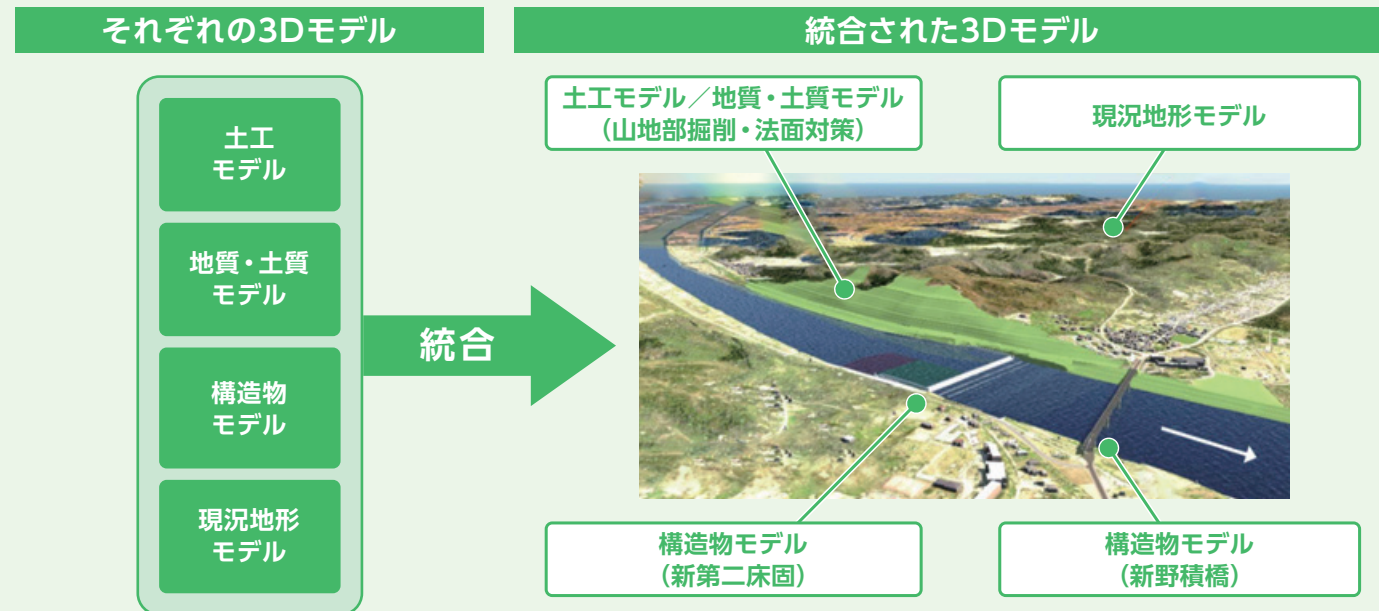
1 義務項目(施工の場合)

- 施工計画の検討補助
- 現場作業員等への説明
- 2次元図面の理解補助

2 推奨項目

- 視覚化による効果
- 省力化、省人化
- 情報収集等の容易化

義務項目は、設計段階で使用した複数の3Dモデルを統合し、施工段階において一つのモデルとして可視化することを指します。

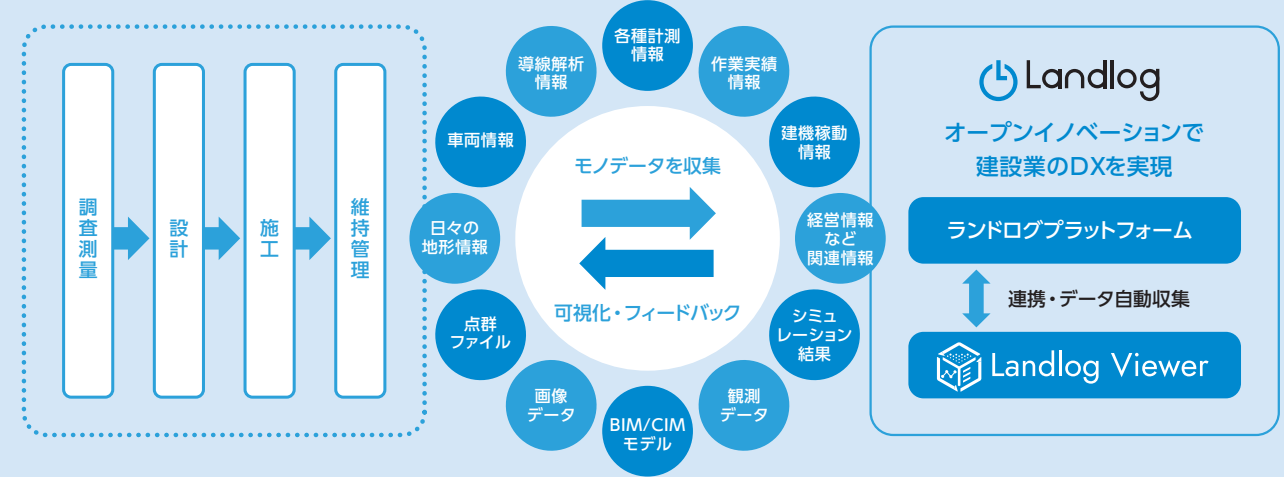


出典:国土交通省 事業監理のための統合モデル活用ガイドライン(素案) 令和4年3月

つまり、この統合モデルを、発注者と事務所のモニターやウェブ会議で共有するだけで義務項目を達成することができます。

ランドログが解決します!

全体概要



サービスの特長

ランドログビューアはソフトウェアのインストールを必要としないため、ハイスペックPCを使う必要はありません。インターネットに繋がるPC・スマートフォンがあれば、インターネット・ブラウザでご利用頂ける3Dビューアです。NETISを取得した建設業向けオープンIoTプラットフォーム、「ランドログプラットフォーム」に保存した2D・3Dのデジタルデータをマップ上で表示することで、調査・測量・設計・施工・維持管理を含めた建設プロセス全体を可視化します。



- 2D・3D、すべての電子データをマップ上で「見える化」**
3Dモデルや点群データなどの3Dデータの表示に対応するだけでなく、現況写真や点検写真など、平面図や縦横断面などの2Dデータも、マップ上にアイコンを設置することができます。
- 地図上に旗揚げ(アノテーション)を表示**
地図上の任意の地点に旗揚げ(アノテーション)を設置し(例:アイコン・線・矢印・多角形・テキスト)、それぞれのデータをランドログプラットフォームに格納できます。
- 3Dデータを利用した土量(体積)計算**
LASerやLandXMLなどの3Dデータを対象として、任意のエリアの土量計算を行えます。計算したいエリアを選択し、現況地形と完成形状のデータを指定することで、切盛土量を算出できます。
- 2D・3Dデータの時系列(タイムライナー)表示**
2D・3Dデータの入力時に時間軸を設定することで、過去に計測したデータと“今”のデータを時系列で表示できます。また、計測データをランドログプラットフォームに継続的に格納することで、維持管理データとして活用可能です。
- 多彩な地形表現**

日本全国の3Dの地形表現を標準で実装し、国土地理院の基盤地図数値標高モデル^{*2}を標準で利用可能です。さらに、高精度DEMデータを活用した高精度な地形表現により、効率的な検討や議論に役立ちます。

^{*2}: 5m・10mメッシュDEMデータ



^{*1}: 工事単独の機械設備工事・電気通信設備工事、維持工事災害復旧工事は対象外